No.

名紙 大阪朝日　大正9年1月24日

名紙 大阪毎日　大正9年1月

製鐵所職工又動く

勞友會總會席上の主張

八幡製鐵所職工を會員とする門司本部勞友會は去る十七日同會本部に於て總會を開きたるが其の席上多數の會員は又復八時間制の實施方を製鐵所當局に迫るべしと主張し併せて會宅のなき職工には住宅料を出さしむべしと唱へ賛成者多きより淺原同會長は然らば各員の同意を得て實行すべしとて翌日より製鐵所中央機關、第二小型、大型、外輪等の各工場職工の連判を求め已に五千數百名の賛成者を得たるを以て近く製鐵所當局に向つて正式に交渉を開始すべしと(門司電報)

なんばせん

式會社　清常清次六郎吉七助吉　勇榮

最後の手段は一齊にサボタージュ

要求は!!住宅料支給 時間短縮!!勞銀値上

◆勞友會の結束◆

昨年大阪を中心として各地に勞働運動が熾烈な當時我北九州の工業地たる洞海灣沿岸の各會社工場主は實に戰々恟々の有樣であつた、殊に八幡の如き二萬餘の勞働者を使役せる製鐵所の心配は一方ならぬものがあつた、無論當時既に此處にも

▲飛火して 可成りの動搖を來たしたが十一月十一日職時

ひ時に壓迫的に出づる事珍しからず監視の眼は炳々たりてあるが會長の意志は石よりも堅く飽迄初志の貫徹に努むべく奮闘を繼續してゐる、蹈くところに依

……に現在欠損續きてあるからと謂つて同情し當然の要求權の拋棄するは甚に勞働者に報ゆる事が餘りに微薄に過ぎた應酬を忘るゝ行爲ではあるまいか、諸君は意を安んじて可なり、私は近々に都から私以上の人を二人連れてきて萬一私が運動半ばにして不幸其筋の爲に拘引せらるゝ樣な場合のあつた時

▲其後人に 後を繼ぐ向引かるゝ時は其次をといふ風に必らず初志だの貫徹に努めるてあらうから、然し若し我要求にして容れられずんば最後の手段として或は一齊にサボタージュの行動をとる事があるかも知れぬ云々と

御眷顧を蒙り

に就ては發

山雨至

製

赤インキ

世界のうわさ

■英國のヂオン、アトキンス君は、ウオルトン、オンテームスの郵便配達